

喪主経験者の約半数が、葬儀における「後悔」アリ 費用が2倍、火葬場難民…喪主たちが経験した「想定外」エピソード 多死社会の中で求められる『葬儀リテラシー』とは？

85年を超える歴史に根ざした年間10,000件を上回る葬儀実績を誇る、株式会社公益社（東京本社：東京都港区、大阪本社：大阪市北区、代表取締役社長：播島聡、以下「公益社」）では、このたび「葬儀リテラシー」をテーマにした意識・実態調査をおこないました。

[調査概要]

- ・調査名：「葬儀リテラシー」に関する意識・実態調査
- ・調査対象：20～80代 喪主の経験がある男女 500名 ※「公益社」のサービスを利用していない方
- ・調査方法：インターネット調査
- ・調査期間：2018年3月7日～8日
- ・調査実施機関：楽天リサーチ株式会社

■心の準備ができないまま…喪主決定は「通夜の直前」が半数近く

現在日本では、「超高齢社会」に続いて「多死社会」がやってくると言われていています。こうした中で求められるのが、葬儀に関する正しい知識、すなわち『葬儀リテラシー』です。そこで今回、公益社では、20～80代の喪主経験者500名を対象に調査を実施。葬儀を迎えるにあたっての準備の実態や、『葬儀リテラシー』と葬儀の満足度の関係性などについて調べました。

まず、「喪主」を初めて務めたときの年齢を聞いたところ、平均は「47.1歳」という結果になりました。割合で見ると、「50歳未満」で喪主を務めた人が52%で半数以上にのぼっています。[図表1]

続いて、初めて「喪主」を務めたときの故人は、どのような続柄の方だったかを聞くと、「父」（61%）が最多で、以下、「母」（23%）、「配偶者」（7%）となりました。初めて喪主となるのは、父親の葬儀というケースが多いようです。

また、「喪主」になることが決定したときのことを聞くと、「通夜の直前（当日・前日）に喪主になることが決定した」という人が47%と約半数に。心の準備ができないまま、急に喪主を務めることが決まったというケースも少なくないようです。

[図表 1]

Q：「喪主」を初めて務めたときの年齢をお聞かせください。

平均 47.1歳



「50歳未満」で喪主を務めた人が52%で半数以上

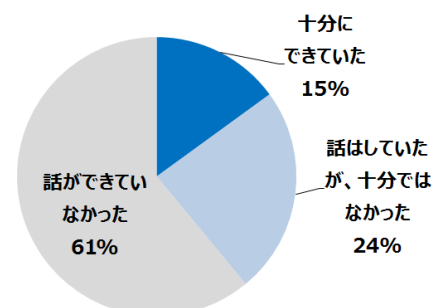
■故人と葬儀について「話ができなかった」喪主が6割超

さらに、「故人の生前に、葬儀について十分な話ができ了吗か？」と質問したところ、「十分にできていた」と回答した人は15%とわずか1割台となりました。「話していたが、十分ではなかった」人も24%にとどまり、残り大多数は「話ができなかった」（61%）と回答しています。[グラフ1]

その理由としては、「話すきっかけがなかったから」（39%）が最も多く、以下、「話す時間的なゆとりがなかったから」（35%）、「話をする必要性を感じなかったから」（28%）、「縁起が悪いと感じたから」（21%）、「自分が考えたくなかったから」（20%）と続きました。

[グラフ 1]

Q：故人の生前に、葬儀について十分な話ができ了吗か？



■ 喪主の約半数が、葬儀において「後悔」アリ…費用や火葬場の予約など「想定外」の出来事も

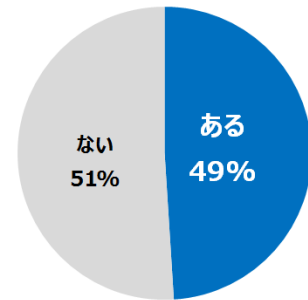
また、「あなたが喪主を務めた葬儀において、後悔していることはありますか？」と聞くと、**49%と約半数が「ある」と回答**。[グラフ 2]

その理由としては、「本人の希望を聞いておけなかったこと、親戚や知人などの把握ができていなかったことなど、全てにおいて後悔している」（44 歳・女性）、「安易に近所の葬儀会社へ依頼してしまったが、もっと事前に葬儀について調べておくべきだった」（60 歳・男性）などがあがり、事前の準備不足を後悔する人が多いようです。

さらに、喪主を務めた葬儀において、「想定外のことがあった」人も、53%にのぼりました。具体的には、「費用が想定外の 2 倍以上になった」（61 歳・男性）、「冬場の混雑期で、火葬場がなかなか押さえられなかった」（73 歳・男性）など、費用や火葬場に関する声が多くあがっています。

[グラフ 2]

Q：あなたが喪主を務めた葬儀において、後悔していることはありますか？



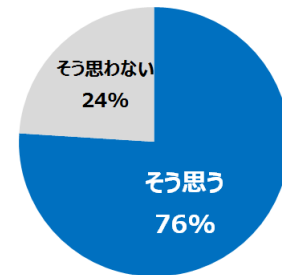
■ 『葬儀リテラシー』は葬儀の満足度も左右することが判明！

そこで、「喪主になってから、葬儀に関する知識不足を感じましたか？」と聞いたところ、**68%と約 7 割もの人**が「感じた」と答えました。実際に、「喪主になる前から、準備に必要な知識・情報を事前に収集していた」人は 2 割台（27%）にとどまっており、『葬儀リテラシー』が低いまま喪主になった人が多い様子がうかがえます。

また、「喪主の葬儀に関する知識の有無は、葬儀の内容や満足度にも影響すると思いますか？」と聞くと、**76%が「そう思う」と回答**。[グラフ 3] さらに、理想的な葬儀と比較して、自身が喪主を務めた葬儀に点数をつけてもらったところ、「喪主になる前から情報収集していたグループの人は、葬儀の満足度が平均 76.5 点という結果になっており、そうでないグループの人（平均 66.6 点）と比較して、およそ 10 点近くの差が生じています。

[グラフ 3]

Q：喪主の葬儀に関する知識の有無は、葬儀の内容や満足度にも影響すると思いますか？



■ 85 年以上にわたる信頼の実績、公益社の葬儀サービス

株式会社公益社は、葬祭業界で初の東証一部上場企業である「燦ホールディングス株式会社」の、グループ中核葬儀社です。**85年を超える歴史ある葬儀社**として培ってきたサービス品質と、一件一件のご葬儀に、まごころを込めて取り組む姿勢が評価をいただき、葬儀施行件数は、年間10,000件以上にのぼっています。

また、厚生労働省が認定する技能審査である「葬祭ディレクター」の資格を持つ社員が250名以上在席（2017年11月時点）し、ご要望に沿ったお葬式の内容をご提案。24時間365日対応していますので、もしもの時にもお電話1本ですぐに駆けつけ、葬儀に関する全てを滞りなくお手伝いいたします。

さらに、葬儀の施行前にご予算にあわせて、明確にお葬式の費用をご提示しますので、想定外に費用が高くなってしまいう心配もありません。豊富な知識と経験を持ったスタッフがイメージ通りのお葬式を誠心誠意お手伝いいたします。

また、葬儀会館に足を踏み入れる機会は普段なかなか無いものですが、事前に会館内の設備や様子を確認しておくと、いざというときも安心です。公益社では、気軽に『葬儀リテラシー』を高められる、大小さまざまなイベントやセミナーを定期的開催しています。詳細は、公益社のホームページをご覧ください。

⇒「公益社」ホームページ <https://www.koekisha.co.jp/>